科目名	刑事政策Ｂ　　Criminology B						
科目担当者	上野 純也　　UENO Junya						
単位数	2	配当年次	３年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(2)(3)
授業の概要	刑事政策の講義では、刑法や刑事訴訟法のような論理的な説明や体系といった理論を中心とする分野とは異なり、私たちが生きる現実の社会でどのような犯罪が生じており、それに対してどのような対応や問題解決手段が妥当であるかを考えます。刑事政策 B では、現代社会における統計をもとに現状を認識した上で、特に刑事司法システム論、犯罪者処遇論に関わるテーマを取り扱います。						
授業の到達目標	①犯罪や刑罰が自分たちの生きる社会で生じる身近な出来事であることを自覚する。 ②印象論や感情論、メディア等の報道に左右されないよう、刑法に関する確かな学術的知識や法的論理的思考を修得する。 ③修得した知識や論理的思考を、現実の社会で生じる問題の発見・解決のために発揮できるようになる。 ④犯罪者と被害者のどちらの視点からも犯罪現象を理解し、立場の互換性を踏まえて、妥当な刑罰のあり方を考えられるようになる。						

授業計画・内容		
	1	イントロダクション　刑事政策の基礎
	2	現代社会における犯罪の実態 ―日本・宮崎県の動向―
	3	犯罪対策と刑事司法システム(1) ―警察と検察の役割―
	4	犯罪対策と刑事司法システム(2) ―裁判所と矯正保護機関―
	5	刑事手続きにおける司法的処遇(1) ―司法的処遇と犯罪者処遇―
	6	刑事手続きにおける司法的処遇(2) ―警察・検察と司法的処遇―
	7	裁判所における司法的処遇(1) ―刑事司法手続と裁判、刑の量定―
	8	裁判所における司法的処遇(2) ―執行猶予と宣告猶予―
	9	施設内処遇について学ぶ(1) ―矯正と施設内処遇―
	10	施設内処遇について学ぶ(2) ―受刑者の法的地位―
	11	社会内処遇について学ぶ(1) ―社会内処遇と仮釈放―
	12	社会内処遇について学ぶ(2) ―社会内処遇と保護観察―
	13	犯罪の予防と刑事政策
	14	犯罪化・非犯罪化 ―被害者なき犯罪―
	15	まとめ ―私たちの暮らしと刑事政策―

授業外学修 (事前学修)	講義レジュメは事前にアップロードしますので、講義を受講する前に予習をしておいてください。また、講義の内容に関わらず、普段からテレビ・インターネット等で犯罪報道にアクセスし、どのような問題があるか考えてください。(毎週 2 時間程度)
授業外学修 (事後学修)	各回の講義内容の中で、特にデータを参照した点やキーワードとして示した点を中心に復習してください。(毎週 2 時間程度)

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	学期末試験または期末レポート 学期内レポート課題(2～3 回予定)	70% 30%	②、③ ①、②、③、④

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	講義内で配布する資料・レジュメを用いて講義します。
参考文献	予習・復習用の参考として、三井誠・瀬川晃・北川佳世子編『入門刑事法［第 8 版］』（有斐閣、2022 年）。
その他	講義では、集中して学びたい学生を最優先に、しずかで集中できる環境を整えるよう努めたいと考えています。授業中の私語、他の講義・学習の作業、履修していない学生の出入りや過度な出入りなど、他の学生の迷惑になるような行動は控えるようにしてください。